

## 加西病院サポーターの会

○サポーターの会は、住民の安心安全の確保の一環として、市民レベルで加西病院の経営安定を目指して、あえて個人的なつながりで賛同者を募り活動を展開している。救急時の急性期対応は絶対に必要、リハビリ等の対応の回復期病棟も重要、終末期の対応も必要と考えている。公立病院で神経科がある総合病院としての加西病院は極めて重要である。加西病院の重要性を市民が認識し自分たちの財産として、自分のため、家族のため、地域のためにその意識を高めてほしい。市議会議員OB会より資金提供があり感謝している。市議会議員の皆さんにも加西病院への支援や応援をお願いする。



○病院職員との交流、受診者や患者目線での病院点検、正月勤務する医者への差し入れ、退職医師への感謝メッセージとお礼品の提供、介助ボランティアの取り組み、病院美化の取り組み、認知症患者への対応等、できることから頑張っている。不便な北向き玄関の問題や受付の問題等、改善すれば喜んでもらえる病院になる確信がある。加西病院が持つ機能を市民に理解してもらえれば、みんなが支える病院となる。そのために病院に関する情報発信が大切である。



○昨年のタウンミーティングでわかったが、加西病院のよさや経営状況も含めた情報が伝わっていない。これまで市民的理解がない状態であり、医師不足や財政的な経営状態の『危機的状況』の情報発信が、今こそ必要である。

○病院選びは個人や患者の自由だが、加西病院がなくなればどうなるか。患者や住民がたちまち困ることを市民が理解して支援しなければ病院は維持できない。いつまでも病院はあって当たり前では病院は維持できない。議会は、もっと踏み込んで対策や協力を考えるべき。

○今の人口で公立総合病院を維持することは大変と理解しているが、それを独立組織にすることはとんでもないことである。施設も設備も老朽化する中、駐車場は拡大され喜んだが、赤字が続く、職員数が多すぎる、なんでも即対応ができない、これらの点は病院のみならず行政全般に言えることで、議会のさらなるチェック機能を望みたい。



○医師確保に加えてサービスも向上させてほしい。それなりに医療機器は更新されても、使いこなす医師を招いた上で、急性期も回復期も受け入れできる病院体制を期待している。高度な医療体制を構築することにより、今の加西病院を受け継ぎ維持していくことでよいと考えている。

○薬局と玄関の往来の安全確保、車イスで来院する患者さんや認知症患者さんを受け入れる玄関の整備が必要など、現状をしっかりと確実に把握して課題解決に取り組むべき。



『新しい物』を求めるより、病院組織としてのチームワークやチーム医療の良さや効果を追求すれば通じるものが見えてくるのではないかと。新しい患者を求めることも必要ではあるが、受診した患者や治療した患者に評価してもらえる病院にすべきと思う。喫茶コーナーや談話のスペースを工夫して確保すること、また医師にとってやりがいのある病院とすべきである。今が頑張りどころと認識して、サポーターの会の活動をしている。



○噂では悪い評判や評価を耳にしてきたが、自分が世話になったとき対応がよく安心できた。風評をどのように払拭するのか。玄関も狭くて不便で老朽化、イメージも悪い。

○地域が支え応援する病院は生き残っている。医師と病院を信頼し支援することが、病院を育て、医師を育て、頑張ってもらえる病院体制になる。先進的な他の病院の取り組みに学びつつ、また情報をいただきながら、加西病院のPRを図っていく。さらに院内の見学や病院の現状を確認して、市民へ情報発信したい。医療従事者との交流会等も実施して意思疎通も図りながら、古い病院であっても加西病院のよさを引き出していききたい。

